



防災だより

社会福祉法人
八重瀬町社会福祉協議会
八重瀬町字東風平1318-1
電話：998-4000
ファクス：998-8999
社協HP
<http://www.yaeseshakyo.com/index.html>

～ 地域福祉等推進特別支援事業 ～

さいがい つよ や え せ ち ょ う め ざ
災害に強い八重瀬町を目指して！

やえせちょうしゃかいふくしきょうざいかい ちいきふくしとうすいしんとくべつしえんじぎょう いっかん
八重瀬町社会福祉協議会では地域福祉等推進特別支援事業の一環とし
て、平成21年4月より「防災だより」を発行しています。
今回は、9月1日「防災の日」、9月9日「救急の日」について、お話しします。

9月1日は

防災の日

9月1日「防災の日」は、1923年（大正12年）のこの日に起きた関東大震災の教訓を忘れない、という意味と、この時期に多い台風への心構えの意味も含めて1960年（昭和35年）に制定されたものです。（暦の上では立春から数えて210日目を特に「二百十日」と呼びます。ちょうど稲の開花期に台風が来たり強風が吹き荒れることに注意を促したしきたりと言えます）

家庭では、いざという時に備え避難場所の確認や非常持ち出し袋を用意しておきましょう。中身は一人で持ち出せる最低限のものを。また、一年に一度は必ず点検、電池やミネラルウォーター、缶詰などは古くなっていれば新しいものと交換します。その他にも、災害直後には持ち出せなくても後々使用できるように水やインスタント食品を別にストックしておく目安です。

阪神淡路大震災では、家具や家電の転倒による被害も多く報告されています。不安定な家具、また危険なものがないかなど、この機会にぜひ今一度家の内外の点検をしてみてもいいでしょうか！



関東大震災

阪神淡路大震災

大正12年9月1日 午前11時58分
最大震度7 マグニチュード7.9
死者・行方不明 14万2千人
全壊・焼失家屋 58万戸以上

損害額は推定約55億円余にも及んだ。1922年度の一般会計予算が約14億7000万円であるのと比較すれば、その損害額がいかに莫大（ばくだい）であったかがわかるであろう。

平成7年1月17日 午前5時46分
最大震度7 マグニチュード7.3
死者・6433人 行方不明者・3人 負傷者・43792人
全半壊家屋 約25万棟（約46万世帯）
その他被害：道路10,069箇所、橋梁320箇所
河川430箇所、崖崩れ378箇所

被害総額：10兆円規模

平成21年度 「防災に関する研修会」

1. 目的

近年、自然災害が頻繁に起こり、多大なる被害をもたらしています。

自然災害による犠牲者の多くが高齢者や障害者となっているなか、要援護者の方々に対する災害時の支援のあり方が大きな課題であると指摘されています。

そこで今回、具志頭児童館利用の小学生と中学生を対象に、いざ災害に遭遇した時に「自分たちに何ができるか」「日頃から何を準備しておくとういかに」を学び、防災意識を高めるとともに、たすけあいの関係づくりを目的として本研修会を開催しました。

2. 日時

平成21年8月7日（金） 午前9時～

3. 参加者

小学生18名・中学生8名・幼児2名 計28名
(具志頭児童館利用の小学生、中学生)

4. 内容

- ①. 沖縄市防災センターにて研修
- ②. 各字の避難場所の確認
- ③. 防災クイズ大会





・災害の怖さについて、ビデオで学習しました。



・沖縄県に一台しかない地震体験機です。



・震度3～震度7の揺れを、全員が体験しました。



・防災センターから戻り、自分が住んでいる字の避難場所の確認をしました。



・防災クイズ大会をしました。

防災クイズ：あなたは何問正解できますか？



- Q1. あなたが家にいる時に大地震が起きた場合、最初にとる行動で正しいのは？
 A. ドアや窓を開ける B. ガスの元栓を締める C. 机の下に隠れる
- Q2. あなたが外にいる時に大地震が起きた場合、一番正しい避難場所は？
 A. コンビニ B. ガソリンスタンド C. 交番
- Q3. あなたがデパートにいる時に、大地震が起きた場合にとる行動は？
 A. 買い物かごをかぶってうずくまる B. コンクリートの柱の下に避難する
 C. 非常口から逃げる
- Q4. 災害時の、ビニール袋の正しい使い方は？
 A. 膨らませて防災頭巾の代わりに使う B. 水を入れて火元に投げつけ、火を消す
 C. 頭からかぶり火災の時の煙を吸わないようにする

※ 正解は次号にて発表します！



9月9日 救急の日



「救急の日」は、救急医療及び救急業務に対する国民の理解を深め、かつ、救急医療関係者の意識の高揚を図ることを目的として「救急医療週間」と共に昭和57年に設けられました。以来、毎年9月9日を「救急の日」とし、この日を含む1週間を「救急医療週間」としています。



目の前に助けが必要な人がいたら—あなたは何かできますか

もし、あなたの目の前で誰かが倒れたら、あなたは何かできますか。救急車が到着するまでに要する時間は平均で5～6分。脳が酸素なしで生きられる時間は3～4分といわれています。大切な命を救うためには、救急車が到着するまでに適切な応急手当をすることが大切です。

■ 応急手当の重要性について

応急手当の重要性は、急病やケガにより救急車が現場に到着するまでの間、その場に居合わせた人が適切な応急処置を速やかに実施することによって、傷病者の救命効果が一層向上する点にあります。救命率の向上のためには、住民による応急手当、救急隊員の応急処置と搬送、医療機関での処置というスムーズな連携が不可欠であり、連携プレーの第1歩が、あなたの応急手当から始まるのです。



■ 救急車の適正な利用をお願いします

全国的に救急出動件数は年々増加しています。救急要請件数の増加は、高齢化が進んだことや、救急車を住民の方が身近なものとしてとらえてもらえるようになったからであります。反面、最近ではごく安易に救急車を呼ぶ風潮（明らかに軽症である場合の利用や、タクシー代わりの利用）があるのも事実です。

消防が救急車の適正利用をお願いする理由、それは安易な救急車利用により救急車の稼働率が上がり、重篤なケガや病気に対して到着が遅れること、1分1秒を争う助かるはずの命を救えなくなることを心配するからです。

